

# 教会レポート

## キッズ祝福式

六月九日(日)に子供たちへの祝福の祈りの時を持ちました。今まで多くの子どもたちの祝福式があり成長して行きました。それに続くキッズが与えられていることは大変感謝です。

午後から小雨の中でしたが碧南市の水族館と公園へ行きました。水族館は大混雑、色々な魚を見て被り物の工作も体験し、公園では観覧車や汽車に乗り盛り沢山の日を楽しめました。



## 父の日礼拝

六月十六日(日)は父の日でお父様方を祝福しました。家族のために一生懸命働いておられるお父様方の健康がこれからも日々守られますように。私のお父さんを一言ずつ紹介し「勤勉で仕事熱心」「厳しい」「優しい」「よく学び教えられる」 「温厚で穏やか」など・・・また、教会学校ではお父さんのために団子を作りました。



午後からは教会墓地の整備へ行きました。熱い中の作業でしたが、おさんパワーで頑張りました。



# ハッピーライフ

## 悩みの日に、わたしを呼べ

中村 和代 (鹿児島県在住)

私は風が大嫌いである。しいて言えば、そよ風なら許せる。異常と言えるくらい風には臆病の固まりである。何故そういう性格なのか、風に向かって颯爽としている格好良い人も大勢いる中で。

子供の頃の境遇に帰依していると思う。父は船乗りで、地元の水産会社の一員で、経理を担当したり、ある時は数名の乗組員と漁に出たりしていた。当時は今とちが情報網は皆無に等しく、テレビは勿論、ラジオのある所はお金持ちの家ぐらいであった。父達は夕方、風であれば出かけていく、夜中突風にどうか何にあうか、全くわからない手探り状態の中に出かけて行く。

ある時、父の留守中、夜中にすごい嵐になっていた。幸いまだ停電になってい

なかった。母がちゃぶ台の前でなりふり構わず祈り叫んでいた。私が小学校就学前だったか、私はゴソゴソ母の前に座し、真似ごとをした。いつまで続いたのか、夜も白々としウトウトしていた。奇蹟が起きたのだ。父の声がした。父が元気で帰って来た。台所でニコニコしながら大声で言った。「今朝は市場で、魚にすごい値がついた。大時化の中で獲れたものだから」と、一匹の大きな赤い鯛を掲げていた。いまだにその姿、笑顔、はしゃぐ声が耳に残っている。

私は海岸の側に住んでいた。遭難者が後を絶たず、海岸に流れて来、数体の遺体にムシロが被せてあり、警察が来るまで野次馬の声が飛び交う光景を何回も見ている。特殊な体験をしたほうではないかと思う。それだからか、破壊力の強い風に対する半端ではない恐怖感、その頃から生じていたのだと思う。

今、巨大台風が珍しくない時代、よく耳にするのが「かつて経験したことのない」異常が日常化している。今、地球が非常に住みにくくなって来ていると思

## 教会マーク



ブルーに囲まれた図形は知多半島をデザインし、中央に十字架を置き教会を表わしている。ブルー部分は海を表わし、円形は世界を表わす。宣教の拡大を願う円形上部を開けてある。

## 教会歌

キリストをかしらとし、御名により召されみことばに従って、み旨をなさん  
お互いに愛し合い、お互いに任せ  
お互いに戒め合い、神の家族とならん  
潮の香とみかんの花、この知多半島と  
造られしすべての者に、神の福音伝えん  
われら知多半島中央キリスト教会  
アーメン アーメン アーメン



うのは私だけだろうか。

私は聖書の中の詩篇五十篇十五節が大好きである。毎日毎日、告白している。

「苦難の日に、わたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出そう。あなたはわたしをあがめよう。」

わたしを呼べ。助ける。あがめる。この三つの公式が大好きである。

鹿児島は台風の銀座通りと言われている。私は鹿児島の玄関に風が入って来ないように、にらみをきかす。だから、戦いの御言葉を心に貯え、立ち向かう！  
主は必ず答えを与えて下さる。今まで多くの不思議な奇蹟を体験させられてきた。

天の評価は、地上でどれだけ叫び続け、たたき続けたかにあるという。私は天を揺さぶる祈りにあこがれる。主は必ず答えて下さる。

主イエス・キリストは永遠から派遣された時の人(今日の人)であり、死に打ち勝たれた復活の人です。  
(「天使の腰かけ」より)